

平成26年度

鎌倉市高齢者生活支援サポートセンター

活動報告

特定非営利活動法人
かまくら地域介護支援機構

1. はじめに

鎌倉市高齢者生活支援サポートセンター（以下サポートセンターという）は、平成25年7月1日に高齢者が地域の中で安心して暮らしていけることを目的にして、在宅福祉サービスセンター内に開設された。この報告書は平成26年4月1日から27年3月31日までのサポートセンターの活動を報告するものである。

2. 設立までの経緯

平成19年度に鎌倉市の相互提案協働事業が行われ、住民参加型の高齢者生活支援グループ6団体で構成する「鎌倉市ホームヘルプサービス連絡会」が応募した「在宅高齢者の生活支援サービス調整機関の検討委員会設置及び運営事業」が採択された。その協働事業に基づき、平成20年度から、地域の福祉団体や在宅サービスを提供する関係機関により検討委員会が開催され、その後6年にわたり在宅高齢者をめぐる様々な生活課題とその解決策を検討してきた。

平成24年度に、かまくら地域介護支援機構が独立行政法人福祉医療機構の助成を得て、「地域の高齢者を笑顔で支えるシステム作り」の事業を推進、そのうちの「鎌倉市高齢者生活支援サポートセンター準備室」事業を平成24年9月から翌平成25年1月までの5か月間、検討しながら試行した。開設までの間にサポーター養成講座を2回開催し、21名のサポーター登録を得た。

試行事業の5か月間に延べ15名の利用者を支援し、上記検討委員会のメンバーで引き続き検討、実施へ向けた取り決めを行った。さらに、生活支援サポーター会議（以下サポーター会議という）、鎌倉市との合同会議を開催して支援に関する事例や課題を検討した。

その試行期間の内容を踏まえて、平成25年5月16日より鎌倉市の委託事業として「鎌倉市高齢者生活支援サポートセンター事業」を受託し、7月1日の開設を迎える事となった。

3. 平成26年度の活動について

平成27年3月31日現在、利用者41名、サポーター85名でサポート活動を行っている。毎月のサポーター会議、鎌倉市との合同会議等を開催し、利用者が安心して自宅で毎日が過ごせるよう、またサポーターが活動しやすいように、検討し話し合いを重ねている。

登録サポーターのスキルアップを目的に研修会を2回開催した。

今年初めに独立行政法人福祉医療機構より取材を受け、「鎌倉市高齢者生活支援サポート制度」についての紹介が同法人の情報誌に掲載された。利用者数や受付状況など、以下のとおりである。

1) 利用者一覧表

26年4月1日～27年3月31日

地域	利用人数	性別		年代				家族形態			介護認定			
		男性	女性	60代	70代	80代	90代	独居	配偶者同居	配偶者以外同居	認定なし	支援1	支援2	介護1
鎌倉	6	0	6	0	1	3	2	3	2	1	1	2	1	2
腰越	29	2	27	2	5	19	3	17	6	6	13	5	8	3
深沢	8	1	7	0	2	6	0	5	1	3	5	0	3	0
大船	15	3	12	0	5	8	2	9	3	3	2	3	4	6
玉縄	5	2	3	0	0	4	1	3	1	1	2	0	1	2
合計	63	8	55	2	13	40	8	36	13	14	23	10	17	13

利用者は地域により特徴がある。地域の結びつきが強く、古くからのつながりを大切にする地区では、新たに転居してきた人がなじめず孤立している場合もある。同居の家族や親族に頼む傾向が多く、地域との結びつきが少ない地区では、困りごとを友人や近隣に相談する人が少なく、訪問介護事業所に依頼することが多いようだ。

独り暮らしの人の依頼は同居者のいる場合の倍になっている。配偶者と同居の世帯は、ともに高齢で日常の困りごとを解決できないこともある。高齢者の親と同居している人も、介護を含めた困りごとを訴えることが多い。家事支援のサービス利用が制限され、家族の介護負担は重くなっている。また、同居家族がいないために、別居の家族や親族の負担も大きな問題になっている。高齢者夫婦も「老々介護」となって深刻な問題である。日常生活の困りごとは、「ちょっとした手伝いがほしい」「買い物が不便」「話し相手がない」「家事が大変」「散歩をしたい」などがあげられる。介護予防の視点を持ち期待に応えられるよう、多様なネットワークと連携しながら活動している。

2) 受付状況

			件数	初回訪問	電話相談 調整	同行訪問	モニタリング 訪問	
4	新規	成 立	7	7	7	7	5	
		不成立	2	2	2			
5	新規	成 立	2	2	2	2	2	
		不成立	2	2	2			
6	新規	成 立	4	4	4	4	3	
		不成立	4	2	4			
7	新規	成 立	2	2	2	2	1	
		不成立	4	4	4			
8	新規	成 立	3	3	3	3	2	
		不成立	2	2	2			
9	新規	成 立	3	3	3	3	3	
		不成立	5	4	5			
10	新規	成 立	1	1	1	1	3	
		不成立	3	3	3			
11	新規	成 立	4	4	4	4	5	
		不成立	1	1	1			
12	新規	成 立	2	2	2	2	5	
		不成立	5	4	5			
1	新規	成 立	6	6	6	6	1	
		不成立	4	4	4			
2	新規	成 立	6	6	6	6	3	
		不成立	5	4	5			
3	新規	成 立	5	5	5	5	3	
		不成立	1	1	1			
合 計		成 立	45	45	45	45	36	
		不成立	38	33	38			

市内の地域包括支援センターや鎌倉民生委員児童委員協議会などに広報活動を行ったが、関心を持っていただき、包括支援センターからの依頼が多くなっている。生活支援サポーターとヘルパーの違いについても、浸透してきている。最近では、初回の訪問で地域包括支援センターの職員やケアマネジャーと同行し、3者が理解しあつたうえで成立することが多くなった。

平成27年2月1日発行の「広報かまくら」の第1面の特集で、鎌倉市高齢者生活支援サポートセンターの活動が取り上げられ、反響が大きく市民からの問い合わせがしばらく続いた。草むしりと掃除の要望が多く、サポート内容は基本的に「一緒に、継続して行く」活動であることを説明して、センターやサポーター活動の趣旨の理解を得てから利用申し込みを受け付け、活動を開始した。

3) 活動の内容 (年間の活動の中での代表的な事例)

支援内容	性別	年代	依頼内容	活動事例
趣味や生きがいの支援	男性	80代	庭の手入れを一緒にして欲しい。 季節ごとにお花の植え替えをしたい。	男性サポーターが、訪問して、土を耕し好きな花を一緒に植えている。
	女性	80代	友人も年を取り、頻繁に会えない。話をする機会がない。色々な意味で社会とつながってほしい。	女性サポーターが訪問して、趣味のパッチワークのこと、花壇に咲くお花の話などしながら楽しく過ごしている。
外出支援	女性	70代	公共機関を利用して友人宅へ訪問したい	初めは近所のスーパーに買い物に行き、食事を一緒にしたりして、映画鑑賞をして、徐々に外出の範囲が広がってきている。
	男性	80代	健康を維持するために散歩をしたい	昼食前の1時間、話をしながら近所を散歩して、楽しんでいる
	女性	80代	気分転換・近所へ買い物に行く為一緒にいて欲しい。	近所をゆっくりと散歩しながら、買い物を楽しむ。
家事支援	女性	80代	一人でやりにくい片づけや資源ごみの整理、庭の草むしりを一緒にしてほしい	納戸の片づけ、衣類や資源ごみの整理、草むしりなどを一緒にやり、仕事の後のお茶とお話を楽しみにしている
	男性	60代	室内の片づけを一緒にしたい。	整理整頓を1人でするのが大変なので一緒にしている。
	女性	80代	調理で固い物を切るのが難しく、味付けも自信がないので手伝って欲しい。	一緒に献立を考え、調理を楽しみながら作っている。階段の上り下りが大変なので、資源ごみを出すのを手伝っている
見守り	女性	70代	夫が夕方外出している間、一人になるので、一緒に過ごして欲しい	夕飯の支度をして一緒にいただき、趣味のゲームをしながら楽しく過ごしている。
	男性	90代	家族が留守をする時、見守って欲しい。	移動時の歩行に気をつけて、見守る。

4. 高齢者生活支援サポーター養成講座

鎌倉市に暮らしている高齢者が、安心して在宅生活を過ごすうえで必要な家事支援等の軽度なサービスを提供するために、必要な知識と技術を身に付けた「高齢者生活支援サポーター」として地域で活動に参加する人材の養成を目的として開催した。

	月 日	開催場所	受講者数		登録者数	
			男性	女性	男性	女性
1	5月20日(火) 5月22日(木)	大船学習センター	2	7	1	4
2	11月25日(火) 11月27日(木)	玉縄学習センター	1	9	1	4
3	3月9日(月) 3月12日(木)	鎌倉市台在宅福祉 サービスセンター	7	20	3	9
	合 計		10	36	5	17

5. コーディネーター養成講座

生活支援サポートを希望する高齢者に、登録しているサポーターを紹介し、そのサポート内容を調整するコーディネーターは、サポートセンターの活動を進める上で、重要な役割を担っている。

鎌倉市地域包括支援センターや民生委員と連携して、依頼者である高齢者の生活状況を把握し、その方にとって、より良いサポートを提供することに努めている。また、鎌倉市の高齢者の状況や介護保険制度、対人援助についてなどを理解することも、重要である。高齢者に安心してサポートを受けていただくことを目的に、コーディネーター養成講座を開催した。

	月 日	開催場所	受講者数	
			男性	女性
1	8月26日(火) 8月28日(木)	鎌倉市福祉センター	2	12
2	2月23日(月) 3月21日(土)	鎌倉市台在宅福祉 サービスセンター	0	7
	合 計		2	19

6. そのほかの活動

1) 研修会の開催

① 第1回サポータースキルアップ講座 「リスクマネジメント」

日 時：9月5日(金) 13:30～15:30 台在宅福祉サービスセンター

講 師：池本 博氏 株式会社 グレイスケア代表(福祉用具レンタル、在宅サービス)

参加者：サポーター25名、スタッフ6名

② 第2回サポータースキルアップ講座 「認知症の“その人”の思い」

日 時：27年3月6日(金) 14:30～16:30 台在宅福祉サービスセンター

講 師：神田けい子氏 ヴィラージュ虹ヶ丘地域密着型特別養護老人ホーム施設長

参加者：サポーター29名、スタッフ6名

2) 会議

① サポーター会議

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開催日	25	30	27	25	1	6	3	7	5	9	6	6	12回
参加人数	24	22	21	27	16	31	23	22	23	26	24	35	294名

② 鎌倉市との合同会議

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開催日	11	2	6	/	1	/	3	7	5	9	6	6	10回
参加人数	7	8	6	/	6	/	9	6	7	8	8	6	71名

③ 事務局会議

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開催日	25	30	27	25	29	26	31	28	26	30	27	27	12回
参加人数	5	5	4	6	6	8	8	8	7	7	7	6	77名

3) 行事

① サポートセンター設立1周年記念行事 7月25日(金) 台在宅福祉サービスセンター

参加者：来賓13名、サポーター25名 事務局6名

② 新年会 27年1月9日(金) 台在宅福祉サービスセンター

参加者：サポーター19名 事務局6名

4) 広報活動

① 情報誌「おげんきですか通信」創刊号及び第2号発行

② パンフレット「おげんきですか」増刷作成

③ 鎌倉市民生委員・児童委員協議会、各地ケアサロン等へ説明

7. 今後に向けて

平成26年度は、年末年始を除き月曜から金曜日までセンター業務を行ったが、生活支援サポーターからの相談や関係機関との調整は、既定の開所時間を超えて行われる場合も多く、複雑化するマネジメント業務については今後の課題でもある。地域包括ケアを推進する中で、市民が市民を支える仕組みとして、鎌倉市高齢者生活支援サポートセンターの活動を多くの市民に理解していただくために、より一層の広報活動を続けていく必要があると考えている。

また、鎌倉市に暮らす高齢者が、日常生活を安心して過ごせるとともに、自分らしい生活を在宅で継続できるように、高齢者生活支援サポーターの活動を見守り、その活動の支援をしていく。